

15. 妊娠,分娩および産じょく (O909)

文献

山本小百合, 池上典子, 尾崎朋文. 産後の下肢むくみに対する円皮鍼の効果について. *東洋医学とペインクリニック* 2015; 44(2): 48-53. 医中誌 Web ID: 2015211886

1. 目的

円皮鍼の産後の下肢むくみに対する効果を検討。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

I助産院、大阪、日本

4. 参加者

助産院に通う褥婦 16 名 (平均年齢 31.0±6.0 歳)

5. 介入

Arm 1: A 群 10 名 (左右の三陰交と陰陵泉に円皮鍼, 0.2 mm×0.9 mm)

Arm 2: B 群 6 名 (左右の三陰交と陰陵泉に円皮鍼の代用でシール貼付)

すべて産後 3 日以内に開始し、両群とも 4 日毎に貼り換え、介入期間は合計 28 日。

6. 主な評価項目

左右の下腿部内果から 5 cm 上の周径 (cm)。出産直後、貼付 1 週、2 週、3 週、4 週の 5 期間に分けて比較。

7. 主な結果

右側は A 群で出産直後 24.5±5.6 と比べて 4 週時 23.5±5.8 と有意に低下したが、B 群は変化がなかった。左側は A 群で出産直後 20.9±6.1 と比べて 2 週時 19.5±6.0、4 週時 19.4±5.5 と有意に低下したが、B 群には変化がなかった。左右とも 2 群間に交互作用はなかった。

8. 結論・意義

円皮鍼は、産後の下肢むくみに対して効果が期待できた。

9. 鍼灸医学的言及

出産の際に気血を消耗することから、「脾気の低下」「腎陽不足」により産後のむくみが出現しているのではないかと考えた。下肢の周径が低下した一因には「脾気の低下」「腎陽不足」を補った結果が作用していると考えられる。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

介入方法やアウトカム測定などが簡便な RCT であるが、産後の下肢むくみの指標について偽円皮鍼群と差があったというデータは興味深い。しかし、誰が円皮鍼を貼ったのか、その人は円皮鍼の鍼が付いているか付いていないか確認しなかったのか、褥婦は円皮鍼と偽円皮鍼の区別がつかなかったのか、誰が周径を測定したのか (マスクングされていたのか) 等、バイアスリスク (すなわちこの RCT の信頼性) を評価するための情報が少なすぎる。また、平均で 1.5 cm の周径の低下は、測定誤差なども踏まえたうえで臨床的にどれくらいの意義があるのか、過去の文献や被験褥婦の自覚症状などを踏まえて考察してほしかった。著者らは円皮鍼が「セルフケアとして推奨できるものと考えられる」と記しているが、皮膚の異変の観察と除去すべき判断基準やタイミング、あるいは授乳や子育てをしている母親の下肢に貼付した円皮鍼が剥がれた際の偶発事故の可能性 (子供の誤飲や踏み付け)、鍼灸師の指導と関与が最低限必要な範囲など、さまざまな事態を想定した安全性の確認と患者指導内容の策定のためにはさらなる検証が必要と思われる。

12. Abstractor and date

山下 仁 2022.3.11